



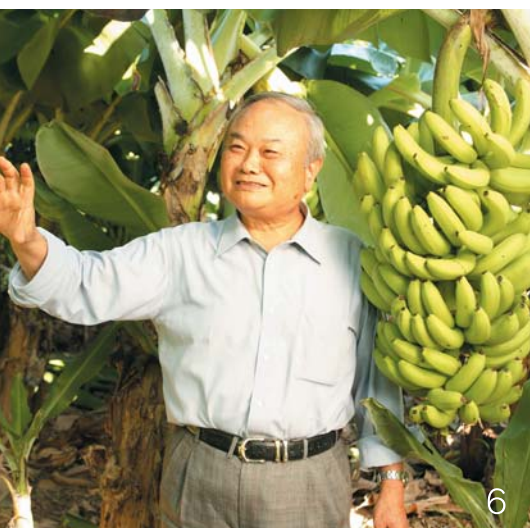
EMの力で、 草むらも畑に、 雑草も肥料に変身!



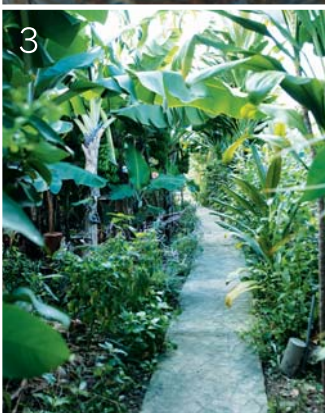
通常のバナナ畑に比べて株の間隔が
つまっているのに、収穫量は3倍、しか
も手入れも超簡単という驚きの自称「い
いかげん農法」。その秘密はEM開発者
である教授ならではの工夫にあります。

なんとこの「青空宮殿」、もともとは
草ぼうぼうだった駐車場脇の空き地。
まず、その雑草を踏み倒しEMを散布、
シートで覆って土づくりをすることで
不耕栽培(耕さなくても、表面を軽く
かく程度で植え付けができる方法)を
可能にしたのです。

さらに農作業で出た雑草や小枝は、
EMと米ぬかなどを混ぜて発酵させ、
特製の「青草液肥」に。バナナの葉も株
と株との間の土にかぶせて堆肥化し、
そこでレタスや小松菜を連作していま
す。ここで生まれたものをすべて無駄
なく循環させ、豊かな自然が息づく「青
空宮殿」。これからどんな風に育ってい
くのか、ますます楽しみです。



- 1) これが教授オリジナルの「青草液肥」。養分が豊富なだけでなく、ほぐれやすい土壌になり、水はけも向上。原料のほとんどは畑からでるものなので、年間の肥料代も2万円ほどに節約できるそう。
- 2) バナナはもちろん、野菜やハーブ、熱帯果実など、四季を通じてさまざまな作物が次々と育ち続ける、循環型の自然環境。
- 3) バナナの間をぬう通路はじゅうたん敷き。「靴も汚れないので、仕事で空港へ行く前にちよっと寄って作業することもしばしば」と教授。



- 4) 栽培しているのは「三尺バナナ」。名前のとおり背が低く、収穫も簡単。通常より密生させることで、台風時にもそれぞれが支えあって倒れにくくなるという効果も。
- 5) すぐそばまでマンションが建て込んでいる「青空宮殿」。近所の人々にもすっかりおなじみで、ちょっとした地域交流の場にもなっているそう。
- 6) 「10リットルの液肥が入ったバケツを両手に下げ、ひと株ひと株かけて回る作業は結構いい運動に。でも、ここにいると不思議と疲れないうすよね」と元気いっぱい教授。

比嘉教授の プライベート農園は、 本日も大収穫

バナナがたわわに実る緑の農園はなんと宜野湾市の住宅街のと真ん中！
EMの生みの親比嘉照夫教授ならではの発想がいっぱいの
「青空宮殿」を訪れました。

楽しく、楽ちんな まさに「楽農(らくのう)」

マンションが立ち並ぶ住宅街の一角に、こつ然と現われるバナナの密林。内側に足を踏み入れれば、ふんわりとした土の通路にじゅうたんなが敷かれ、見上げれば、バナナの葉が心地よい日陰を作っています。「夏は涼しいし、作業していても気分がいいですよ」と比嘉教授。「青空宮殿」というネーミングもなるほど、とうなずけます。

1年の3分の2は海外や国内各地を飛び回っている超多忙な教授。

仕事の合間を縫って170株あまりのバナナの管理を一人で行っていると聞き、さぞや大変なのではと思いきや「ふだんの手入れは様子を見ながら液肥をまくぐらい。短時間でできるし、必要な道具も、軍手と小さいツルハシと鋏、それと剪定(せんでい)ばさみぐらいですから」とっこり。楽しみながら手のかからない方法を実践する「楽農(らくのう)」、その極意が「青空宮殿」全体に満ちあふれているのです。

TOPICS

EMフォーラム2008にて現地見学会を実施

昨年11月に行われた見学会には、全国から定員の倍を超える100名近くの見学希望者が参加。バス2台に分乗し「青空宮殿」へと向かいました。現地では比嘉教授自らがEMの活用法と栽培管理につい

て説明。熱心にメモを取る人、カメラ撮影する人など、どの参加者にとっても、またとない有意義な機会となりました。



読者のガーデニング&家庭菜園、投稿募集中! ※詳しくは、P.29をご覧ください。